

ゴーヘッドス 速報

Goaheads

第12号 平成26年5月31日

序盤泉の適時打で先制 幹男は守備で貢献

棚川公約を俣野で豪快に達成！

	1	2	3	4	5	6	7	R
B	0	0	2	0	0	0		2
G	0	1	5	2	0	0		8



5/31(土) 俣野公園野球場にて、SCL三戦目をビルディングと戦った。このリーグが現在1勝1敗と成績なだけに、今日の試合で勝利を先行したい、そんな気持ちで今日のゲームに望んだ。マウンドには、光希が上がり、プレイボールとなったが、前節仕事で痛めた腰の状態が気になる立ち上がりとなった。先頭打者を連続ボール4つの四球を与え出塁を許す。しかし、その後は、祐太郎の好手、自身は三振に斬るなど、初回は0封発進とした。ゲームが動いたのは、2回の攻撃、この回先頭の祐太郎が四球を選択し出塁、その後すぐさま二盗を決める。棚川の三ゴロの間に祐太郎は三塁へ進塁し一死三塁、次打者の深沢は右前に運びも、打球が浅く、祐太郎は生還出来ず、一死一・三塁、そして深沢も二盗を決め、打席には泉が入る。ベンチからの「思い切っていけ」の指示の下、三球目を振り抜くと打球は中前に落ち、祐太郎が生還し先制。しかし、その後は、深沢がRP、後続も続かず、最少得点の1点止まり。野球のセオリーは得点の次に往々にして失点をするケースがあるので、気をつけたが、案の定、その心配は的中。この回先頭に今日2個目の四球を与える。次打者は打ち取った感に見えたが、野手の失策で無死一・二塁、更には、牽制が悪送球となり、併殺崩れの間と同点、更には、安打で逆転を許した。またまた、失点シーンの後だけに、何とか追いつかなければ、流れは相手にいってしまう。しかし、この回ビッグイニングが訪れた。先頭は凡打で倒れたが、1番哲也が懸命の走りで三塁打で出塁、二番は凡打で倒れ二死三塁、三番光希のセンターに抜けるかという打球は野手が好捕したが、一塁に送球エラー、この間に哲也が生還し同点。4番今日二個目の四球を選択し二死一・二塁、そして五番棚川が三球目を強振すると、打球は左翼99mの表示を遥かに越したレフトスタンドに叩き込む3ランホームランで一挙3点を追加。更に二死の状況から得点する。深沢・泉が四球を選択し出塁、シローが左前に運び満塁とし、ここで今日守備で再三貢献している幹男が打席に入る。2-3から正しくボールを選択すると、押し出しにより5点目。まだまだ、イケイケの状態は続いたが、残念ながら、次打者が倒れ三者残塁とした。翌4回には、無安打で2点を追加し、今日のゲームを勝利とした。投げた光希も失点はしたものの、そこそこの場面は抑え、失点も序盤の2点のみ、という内容で勝利投手となった。暑い中の戦いだったが、だれる事無く戦ったのは、勝利を目指す、チームの気持ちと受け止める。そんな中、今日を振り返ってみると、やはり、泉の適時打を呼んだベンチの指示(声援)、それに答えた泉、更には棚川のクリーンナップとしての働き、そして、懸命に守備で貢献した幹男と、全員が主役の内容だと思う。だが、愛嬌も・・・終盤に5打者三振を喫したが、これはご愛嬌という事で、水に流し、次節には持ち込みたく無い内容ですな！まだまだ暑くなりますが、今日のような内容が暑さも忘れてくれる内容だと感じるゲームだったと思います。